

鹿本中学校応援団実践報告書

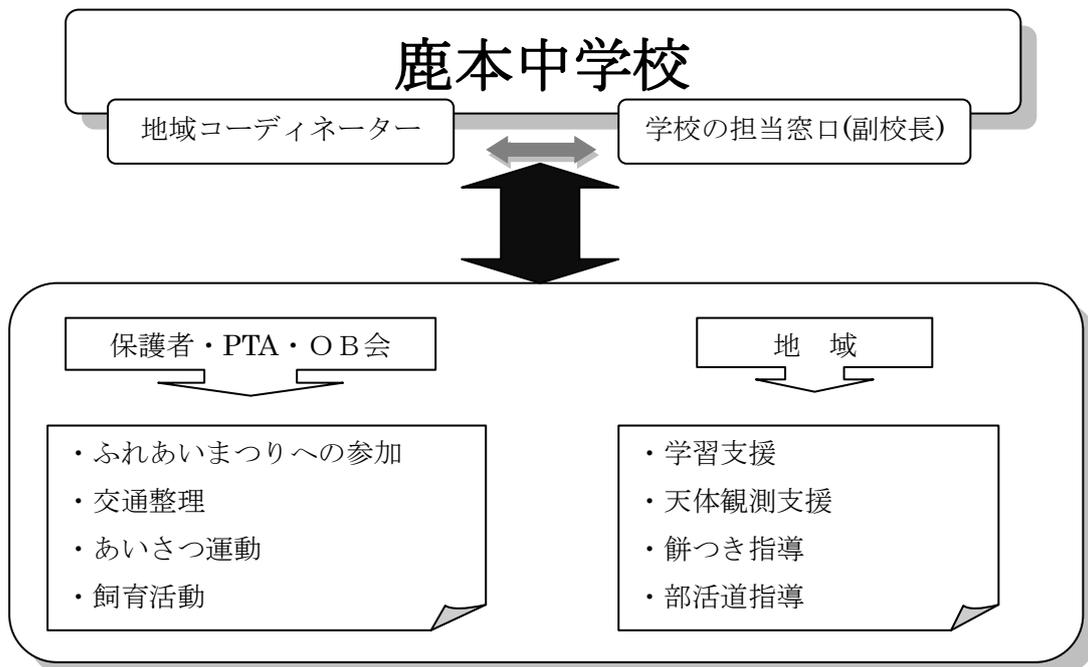
1 校長及びコーディネーター氏名

鹿本中学校長 上原 正一
コーディネーター 加藤 正人（本校第38代PTA会長）

2 今年度の活動内容

応援団の種類	応援団の名称	活動内容
安全・安心	交通整理 あいさつ運動	○学校行事の際の駐輪場警備。 ○あいさつ運動への参加。
学習活動	学習支援 餅つき指導	○サタデースクールにおける学習支援。 ○夏期休業中の学習補習指導。 ○特別支援学級の餅つき会指導。
天体観測	星を観る会	○金環日食観察の支援。
夏季プール	水泳指導	○特別支援学級の夏期休業中水泳指導
行事支援	PTA・OB会	○PTAふれあいまつりにおける餅つき・販売
飼育活動	昆虫飼育	○カブト虫の飼育・観察。
部活動支援	外部指導員	○野球部の技術指導。 ○卓球部の技術指導。 ○吹奏楽部の技術指導。 ○手話・ボランティア部の技術指導。

3 学校応援団組織図



4 今年度の成果と今後の課題

<成果>

P T Aふれあいまつりの餅つき・販売や、外部指導員による部活動指導など、学校応援団としての取り組みが定着する一方、今年度は新たなニーズを発掘し、支援活動に幅と深みをもたせることができた。例えば、従来は教員志望の大学生等を中心に展開していた学習支援活動に、今年度は退職教員を加えることによって、生徒に対し、よりきめ細かな、かつ、より専門的な指導を行うことができた。また、5月の金環日食では、地域の「星を観る会」のご協力を得ることによって、本格的な望遠鏡や大型TVを活用しながら、世紀の天体ショーを本校の校庭で十分に堪能することができた。

<課題>

今年度も本校コーディネーターのご理解とご協力の下に、なんとか組織としての体裁を保つことができたが、現実的な問題としては、前年度に引き続き、副校長にかかる負担が非常に大きかった。今後は、校務分掌に位置付ける等の工夫を怠らないと、今後、発展的に拡充していくことが困難になることが予想される。また、一律8万円支給されている支援委託費の管理や執行についても煩雑で制限が多く、誰にでも簡単に取り扱いができるよう、事務局には、より簡略化に向けた検討をお願いしたい。

5 コーディネーターより

学校応援団も二年目の活動を終えようとしている。

学校・地域が連携して<共育>の環境づくりが着々と根付いていっているように感じられる。ただ、平田先生に負担が集中していることを次年度への火急の課題としたい。

従来からの支援活動に加え、参画していただける輪の広がりも心強い。更なる協力者の発掘・お声掛けを推進し、コアな伝統的支援体制と新しいプログラムで多種多様な“才能（主役の子供達）”を応援出来るよう、関心を持って頂けるよう、活動を推進していきたい。

最後に、見守り支えて頂いている方々に御礼の言葉を申し上げます。

6 学校長より

教育は、学校・家庭・地域それぞれが、認め合い、協力することが大事であると考えます。

さて、鹿本中ではどうでしょうか。P T A役員や各委員さんや地域の皆さんの健全育成や教育活動を含めた協力を大変強く感じています。例えば、夜間地域巡回、学校行事での役割分担、あいさつ運動、学習支援、特別支援教育の行事指導、進路面接支援、地域行事の企画・実施、部活動の技術指導など多岐にわたって活動を強力に推進していただいております。

私は、学校応援団の方々とのふれ合う姿を通して、「鹿本中の子供達への愛情」を強く感じています。そして、生徒が感謝の気持ちを強く持ち続け、学習、行事や部活動にひたむきに取り組んでいます。鹿本中の生徒は、様々な力を持っています。学校応援団の皆さんの力が、生徒の一人ひとりの力を引き出すきっかけになっていることに、また、発揮し自信につながっていくことに感謝しています。このことで、生徒一人ひとりが『夢の実現』に向けて、道を選択し歩んでいくことを期待しています